

リハビリ通信

「不器用」ってなんだろう？



子育てをする中で、日々子どもの成長を見守ることは、親にとって大きな喜びです。一方で、年齢に比してどうもスプーンやお箸がうまく使えない、ボールがうまくキャッチできない、といった様子があると不安に感じるかもしれません。成長のスピードは子どもそれぞれで違いますので、すべて不安に思う必要はありません。運動や手作業などの経験値による差、ということもあります。でも、極端に「不器用さ」がある場合には、**DCD(発達性協調運動障害)**を疑うことがあります。今回はこのような「不器用さ」のある子どもへの支援について、簡単に紹介します。

「不器用さ」の要因はいくつかあります。例えば「触覚や固有覚などの感覚が鈍い」と指先で物の感触がわかりづらかったり、力が入りすぎたりしてしまいます。また「協調運動が苦手」だと、体を滑らかに動かさないので、動作が遅くなってしまいます。

子どもに不器用さがあって、例えば鉛筆がうまく使えないとき、つい書く練習ばかりをさせてしまいがちですね。しかし前述の要因いずれの場合にも、特に幼児期にはまず、体を使った遊びをたくさん経験することが有効だといわれています。またそれには子ども自身が、自発的に、楽しみながら体を動かしていることがとても大切です。「不器用さ」がある子どもは、失敗経験が重なって自信を無くしてしまっていることも少なくありません。大人が子どもの気持ちに寄り添い、安心して楽しくできる環境を整えてあげることが大切です。

もし、子どもの運動や不器用さが気になったら、まずは地域の保健センターや支援センターなどに相談してみましよう。

(リハビリテーション科 作業療法士 奈良)